

情報科学実験C 中間レポート

氏名 山久保孝亮
所属 大阪大学基礎工学部情報科学科ソフトウェア科学コース
メールアドレス u327468b@ecs.osaka-u.ac.jp
学籍番号 09B22084
提出日 2024 年 12 月 3 日

1 Tiny-Processor と C-Processor のデータパスの違い

以下の図 1,2 はそれぞれ Tiny-Processor と C-Processor のデータパスである。

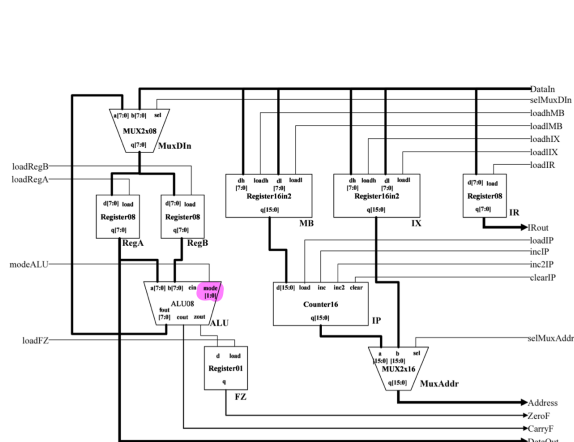


図 1: Tiny-Processor のデータパス

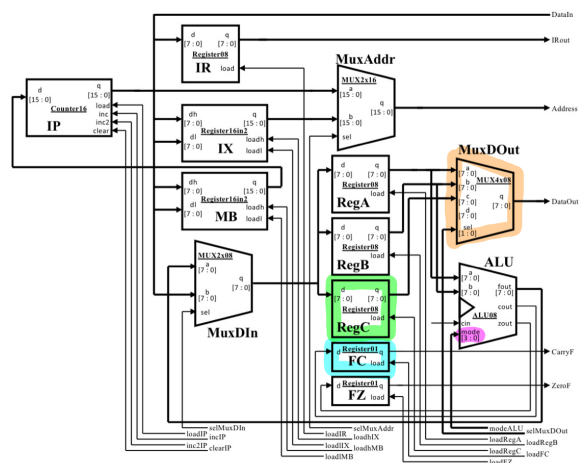


図 2: C-Processor のデータパス

この二つのデータパスの違いを明確にするために色付けをした。以下でそれぞれの違いについて述べる。

- 図 1 のピンクに塗った部分は ALU の入力 mode を表す。Tiny-Processor では mode は 2 ビットの入力として設計されている。図 2 のピンクで塗った部分は C-Processor の同じく ALU の入力 mode である。C-Processor では Tiny-Processor よりも機能が増えており、mode の入力が 4 ビットに増加している。
- 図 2 の緑で塗った部分は RegC であり、C-Processor で追加されている。入力は新たに追加された loadRegC 以外は RegA, RegB と同じである。このレジスタ C は STDI 命令の際に使用される。詳細な説明は 2 で記述する。
- 図 2 の青色で塗った部分は FC であり、C-Processor で追加されている。入力は新たに追加された loadFC と ALU の出力である cout で、出力は q 即ち CarryF である。これは ALU の演算の結果、桁上りが発生したかを判定する。これから CarryF という信号が得られ、JPC 命令に利用される。
- 図 2 のオレンジで塗った部分は MuxDOOut であり、4 入力のマルチプレクサである。ただし、4 入力の内 3 つしか使っておらずその 3 つの入力は RegA, RegB, RegC の出力である。また、4 つの入力の内どの値を出力するかを決定する 2 ビットの selMuxDOOut を追加した。そして出力が DataOut となる。Tiny-Processor では RegA の出力が DataOut となっていたが、C-Processor では三つのレジスタからマルチプレクサで選択して DataOut を決定している。

2 STDI 命令のデータの流れ

以下の図 3 は 1 の図 2 で示した C-Processor のデータパスに、STDI 命令を実行する際のデータの流れを追加したものである。

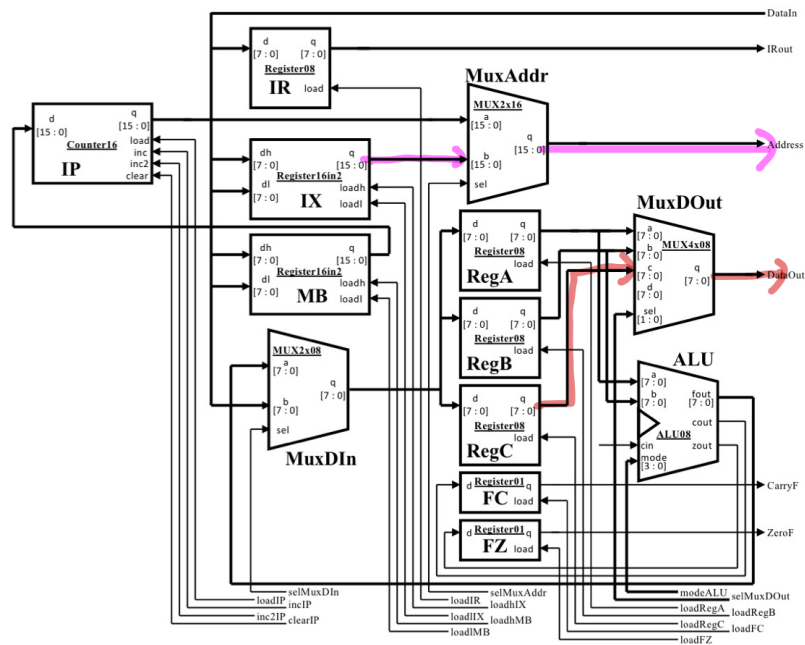


図 3: C-Processor における STDI 命令のデータの流れ

ピンクの矢印はアドレス、赤の矢印は

3 C-Processor の外部出力信号用ジョンソンカウンタと内部制御信号用ジョンソンカウンタを示せ。

設計に用いた外部出力信号のジョンソンカウンタと内部制御信号のジョンソンカウンタを示し、それぞれ説明する。

4 C-Processor の設計にあたって工夫した点やアピールする点があれば、章立てて報告すること。拡張課題についても同様。

C-Processor の設計にあたって、何かしらの工夫を行なったことがあれば、記述する。拡張課題は以下の様に、それぞれの節を用意して説明する。

- 4.1 拡張課題 a：プロセッサ命令セットの拡張
- 4.2 拡張課題 b：簡易アセンブラの作成
- 4.3 拡張課題 c：演算機の改善